

2005(平成17)年度 国立看護大学校研修部活動報告



研修部長 丸口 ミサエ

2005年度に研修部が行った研修は、表1のとおりである。内容は政策医療的な視点に加え、2004年11月に実施した研修ニーズ調査を参考に計画した。また今年度から、研修への応募方法を大幅に変更し、各ブロック事務所を介さず、直接、各施設から大学校に応募することとした。さらに認定看護師教育課程においては、大学校において選考試験(筆記試験・面接)を実施した。なお本年度は、専任教員が不在のため、認定看護師教育課程「がん化学療法看護コース」は休講し、「感染管理コース」「がん性疼痛看護コース」の2コースを開講した。

1. 看護研究法－実践コース－

施設内において看護研究を遂行できる人材を育成することを目的に、当研修部が主催した「看護研究研修基礎コース」の修了者を研修対象として募集し、5名の参加を得た。

受講生は、6月に大学校において3日間の研修を受けた後、チューターとなる大学校教官の指導のもと、各施設において、データ収集、データ分析、論文の作成を行っている。2006年2月3日には「研究発表会」を開催し、各自の研究成果を発表した。

2. 看護研究法－基礎コース－

施設内において看護研究を遂行するために必要な基本的知識を備えた人材を育成することを目的に

表1 2005年度看護研修

研修名	応募資格	研修期間
看護研究法－実践コース－	看護師・助産師・教官で、 看護研究研修基礎コース 修了者	2005年6月1日～3日(3日間) 2006年2月3日：研究発表会
看護研究法－基礎コース－	看護師・助産師・教官	2005年7月25日～29日(5日間)
摂食・嚥下障害看護	看護師・助産師・教官	2005年9月7日～9日(3日間)
精神看護－急性期－ 「精神科看護における包括 的暴力防止プログラム」	政策医療ネットワーク 「精神疾患」施設の看護師	2006年1月24日～27日(4日間)
認定看護師教育課程 「感染管理コース」	看護師・助産師	2005年10月3日～ 2006年3月24日(6か月間)
認定看護師教育課程 「がん性疼痛看護コース」	看護師・助産師	2005年10月3日～ 2006年3月24日(6か月間)
認定看護師教育課程 「感染管理コース」 フォローアップ研修	「感染管理コース」 修了者	2005年12月6日(1日間)
認定看護師教育課程 「がん性疼痛看護コース」 フォローアップ研修	「がん性疼痛看護コース」 修了者	2005年12月9日(1日間)
認定看護師教育課程 「がん化学療法看護コース」 フォローアップ研修	「がん化学療法看護コース」 修了者	2006年3月8日(1日間)

募集を行い、ナショナルセンター 8 名、ハンセン病療養所 4 名、国立病院機構 25 名、附属看護学校 12 名の、計 49 名の参加を得た。

研修では、文献検索、質的・量的研究方法、統計処理演習など、短期間に濃縮された講義・演習を実施し、「研究の基本的知識を得ることができた」「研究に対する意欲が湧いた」「講義が理解しやすかった」などの意見が多く、研修全体に対する満足度も高かった。しかし、「もう少しゆっくり学びたい」「文献クリティークの時間がもっと欲しい」といった意見もあり、来年度に向けて、研修内容と時間の配分を検討していきたい。

3. 摂食・嚥下障害看護

嚥下のメカニズムを理解し、摂食・嚥下障害のある患者に対する適切なりハビリテーション看護の能力を備えた人材を育成することを目的に募集を行い、ナショナルセンター 8 名、ハンセン病療養所 7 名、国立病院機構 35 名、附属看護学校 3 名の、計 53 名の参加を得た。

本研修は、前述の研修ニーズ調査において非常に要望が高く、今年度、初めて開講した。講師として、「ナーシングホーム気の里」施設長の田中靖代先生、昭和大学歯学部口腔衛生学教室の弘中祥司先生、名古屋医療センター附属看護助産学校教育主事の浅野妙子先生をお迎えし、講義と演習を織り交ぜた 3 日間の研修を実施した。研修に対する満足度は非常に高かったが、研修期間が短いといった意見が多く、来年度は 4 日間に期間を延長して実施する予定である。

4. 精神看護－急性期－「精神科看護における包括的暴力防止プログラム」

精神科において暴力や攻撃性に対して適切に対応する技術を習得し、職場で指導できる能力を備えた人材を育成することを目的に募集を行い、37 名の参加を得た。2006 年 1 月に講義と実習を交えた 4 日間の研修を実施し、受講生からは「実践に即役立つ内容であった」など、高い満足度を得た。

5. 「感染管理コース」(認定看護師教育課程)

院内感染サーベイランスの実践と感染防止技術の根拠の検討に必要な知識と技術をもって組織横断的に感染管理を行える認定看護師を育成することを目的とした、講義・演習・実習をあわせ 630 時間の教育課程である。ナショナルセンター、国立病院機構から計 16 名の応募があり、選考試験の結果、第 5 回生として 14 名を迎えた。

研修生は、疫学・統計学、微生物学、感染症学といった、看護師としては慣れ親しむ機会が少なかった分野の講義に苦闘しながらも、院内感染対策チームのリーダー、あるいはリンクナースとしての資質を養うべく、日々、努力を重ねている。

6. 「がん性疼痛看護コース」(認定看護師教育課程)

がん性疼痛を有する患者の疼痛マネジメントおよび全人的なケアが実践できる能力と、他の看護師の指導・相談を行うことができる能力をもった認定看護師を育成することを目的とした、講義・演習・実習をあわせ 630 時間の教育課程である。ナショナルセンター、国立病院機構から計 20 名の応募があり、選考試験の結果、第 3 回生として 17 名を迎えた。

研修生は、がん性疼痛に苦しむ患者に良いケアを提供するために、専門的かつ高度ながん性疼痛緩和に関する知識・技術の習得に励んでいる。

7. 「感染管理コース」フォローアップ研修

感染管理に関する最新の情報・知識・技術を習得することを目的に、「感染管理コース」修了生 79 名を対象に募集し、73 名の参加を得た。

今年度は、独立行政法人国立病院機構災害医療センターの協力を得て、「災害を想定した机上シミュレーション」を実施し、大規模災害における感染管理について知識を深めた。来年度はさらに参加者が増える予定であるため、内容を吟味・検討して実施していく予定である。

8. 「がん性疼痛看護コース」フォローアップ研修

がん性疼痛看護認定看護師としての活動の方向性を見出すことを目的に、「がん性疼痛看護コース」修了生 30 名を対象に募集し、28 名の参加を得た。

「活動報告 抱えている問題と困難についての報告」では 10 名が発表を行い、がん患者の疼痛緩和を図るべく、修了生たちがそれぞれの立場で活動している状況を伺うことができた。また、修了生の増加に伴い、各地域でのネットワークもできつつあるが、修了生間で意見交換や情報の共有が行えるよう、研修部としてもバックアップしていく予定である。

9. 「がん化学療法看護コース」フォローアップ研修

がん化学療法看護認定看護師としての活動の方向性を見出すことを目的に、「がん化学療法看護コース」修了生 17 名を対象に募集を行い、全員の参加を得た。2006 年 3 月 8 日に 1 日間の研修を実施し、各修了生が 1 年間の活動について報告した。